

2022 年度
自己点検・自己評価結果報告書

2023 年 3 月

ベルランド看護助産大学校
学校評価委員会

はじめに

質の高い看護職者を養成するには、学校としての教育水準の維持・向上と、創意工夫のある教育の追求を図ることが求められる。学校は学校の諸機能を定期的に確認し、「品質保証改善」の仕組みとして学校評価が機能的に位置づけ運用されることが求められる。

専修学校の学校評価については、学校評価ガイドライン等の提示により 80%以上の学校で行われている。本校では、2014 年、2016 年に自己評価を実施、2015 年には学校関係者評価委員会を立ち上げ、学校の評価委員会による学校評価、その結果に対しての学校関係者委員会からの助言提言の実施を継続し、学校評価の PDCA サイクルが整ってきた。

2 年に一度行っていた自己点検・自己評価は、2021 年度より毎年実施とした。2021 年度は評価が大きく低下したが、今年度と比較し、現状の取り組みと課題を分析し、報告する。

対 象：教職員 27 名（学校長を除く）

調査期間：2022 年 12 月 24 日～2023 年 1 月 14 日

調査方法：学校 WEB システム教職員ネットワークを用い、無記名にてデータを入力する。データ入力後は、個人が特定できないように保存し、学校評価委員会でデータを取り扱う。専任教員か事務職員の属性と所属について回答するが個人を特定しないことを条件とし依頼した。

評価尺度：4＝適切 3＝やや適切 2＝やや不適切 1＝不適切 わからない の 4 尺法

*評価したその理由と改善の提案を自由記載

有効回答数：事務職 6 名 (100%)

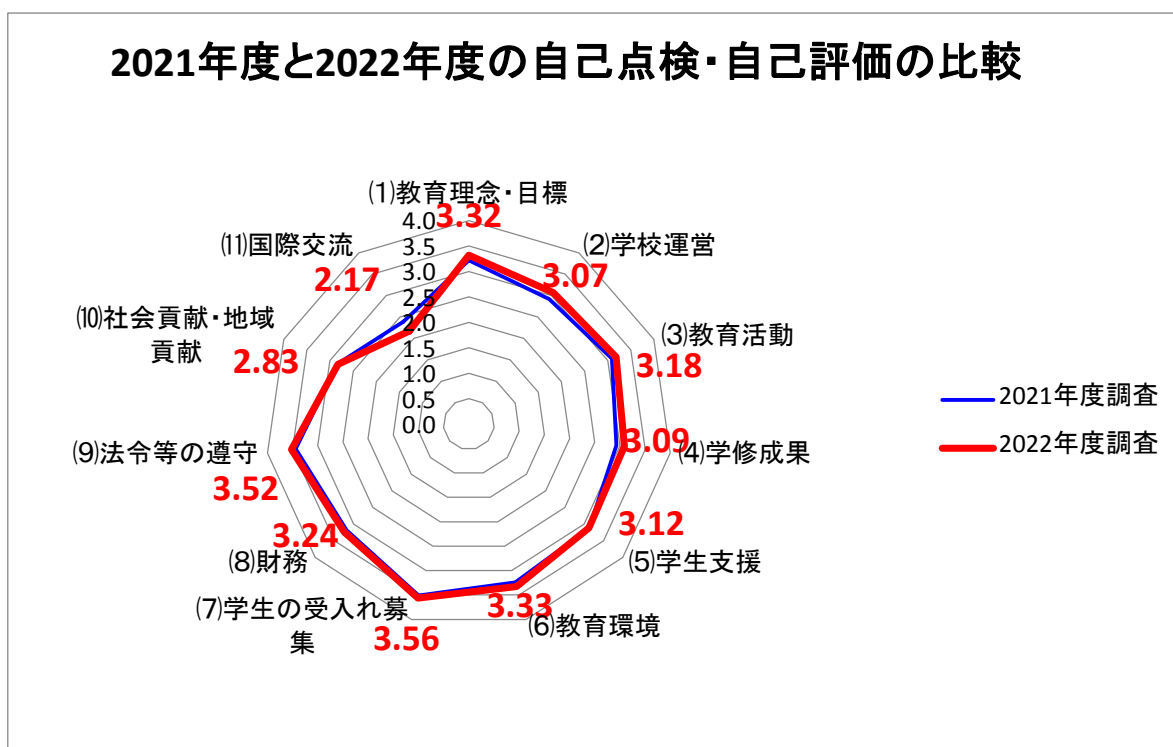
助産学科専任教員 4 名 (100%)

高度専門看護学科専任教員 17 名 (100%)

全体結果

	大項目別平均			前年度比
	2020 年度調査	2021 年度調査	2022 年度調査	
(1)教育理念・目標	3.56	3.22	3.32	103.11%
(2)学校運営	3.35	2.92	3.07	105.14%
(3)教育活動	3.43	3.09	3.18	102.91%
(4)学修成果	3.20	2.93	3.09	105.46%
(5)学生支援	3.38	3.13	3.12	99.68%
(6)教育環境	3.42	3.24	3.33	102.78%
(7)学生の受入れ募集	3.59	3.51	3.33	101.42%
(8)財務	3.42	3.18	3.24	101.89%
(9)法令等の遵守	3.65	3.44	3.52	102.33%
(10)社会貢献・地域貢献	3.09	2.84	2.83	99.65%
(11)国際交流	2.69	2.39	2.17	90.79%
全項目平均	3.34	3.08	3.13	101.59%

2021年度と2022年度の自己点検・自己評価の比較



全体結果：全体の平均値は、2020年度 3.34、2021年度 3.08 と 2022年度 3.13 であった。

2020年度と比較すると 93.71%低下しているが、2021年度との比較では 101.59%と僅かに上昇した
 <大項目別の比較>

11項目中8項目の評価が上昇した。上昇傾向にあっても昨年より低下している項目は、(5)学生支援 (99.68%)、(10)社会貢献・地域貢献 (99.65%) (11)国際交流 (90.79%) であった。評価点が3 (やや適切) 未満であったものは(10)社会貢献・地域貢献(11)国際交流であった

<小項目の比較>

評価が**上昇した小項目は 42 項目**であった。

(うち 0.3 ポイント以上上昇)

- | | | |
|----------------------------|--------------------|----------------|
| ①1) 理念・目的・育成人材像は定められている | 前回の 3.46 から 3.77 へ | (前回対比 108.95%) |
| ②8) 運営組織や意思決定機能の明確化と有効性 | 前回の 2.44 から 2.83 へ | (前回対比 115.98%) |
| ③11) 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制 | 前回の 2.91 から 3.35 へ | (前回対比 115.12%) |
| ④14) 教育課程の編成・実施方針の策定 | 前回の 3.26 から 3.57 へ | (前回対比 109.5%) |
| ⑤15) 教育到達レベルや学習時間の確保は明確 | 前回の 3.22 から 3.54 へ | (前回対比 109.93%) |
| ⑥29) 資格取得率の向上 | 前回の 3.3 から 3.7 へ | (前回対比 112.12%) |
| ⑦31) 卒業生の社会的な活躍および評価 | 前回の 2.32 から 2.67 へ | (前回対比 115.08%) |
| ⑧54) 個人情報に関する保護の対策 | 前回の 2.96 から 3.62 へ | (前回対比 122.29%) |

評価が**低下した小項目は 23 項目**であった。

(うち 0.3 ポイント以上下降)

- | | | |
|----------------------------|-------------------|---------------|
| ①9) 人事、給与に関する制度は整備 | 前回 3 から 2.65 へ | (前回対比 88.3%) |
| ②24) 要件を備えた教員の確保 | 前回 2.89 から 2.2 へ | (前回対比 76.12%) |
| ③63) 国際交流学内で適切な体制が整備されているか | 前回 3.21 から 2.61 へ | (前回対比 81.3%) |

(1) 教育理念・目標

教育理念・目標の大項目平均は、3.22 から 3.32 の前年対比 103.1%であり、小項目の中では 1)「理念・目的・育成人材像は定められている」は 3.46 から 3.77 の 108.95%と上昇し、2)「学校における職業教育の特色を表現」3.4 から 3.58 の 105.29%上昇し、高得点であった。高度専門看護学科・助産学科ともに専門分野の特性を明確にし、教育理念の実現に向けた具体的な目標・計画・方法を新カリキュラム構築できたからと考える。4)「理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知」は 3.21 から 3.08 の 95%と僅かに減少した。ホームページや保護者会等でも公表しているが、今後は関連業界も含め、公表方法・内容の適切性および有効性を考慮し周知できるようにしていく。

(2) 学校運営

学校運営の大項目平均は、2.92 から 3.07 の前年対比 105.14%であり、小項目 8 項目中 7 項目が上昇した。特に 11)「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備」2.91 から 3.35 の 115.12%と上昇した。これは、教職員が行政、教育団体、看護協会、助産師会との連携の実際を理解している事や他の看護師養成所の視察の受け入れなどによるものと考えられる。8)「運営組織や意思決定機能の明確化・有効性」2.44 から 2.83 の 115.98%上昇したが、2.83 と低値である。10)「教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備」も 2.9 であり、学校運営のための組織は整備され、意思決定の権限や規則規程など明確にしているが、実際の運用が円滑でないと評価している意見が多くみられた。その他 3 ポイント以下の項目は 9)「人事、給与に関する制度は整備」3 から 2.65 の 88.33%低下した。人事考課制度があるが、評価者が法人の評価規定と異なることや適正な評価がなされていないなどの意見があった。13)「情報システム化による業務の効率化」2.55 から 2.69 の 105.49%上昇したが、ICT 利活用は進んでいるものの機器の古さや不具合、セキュリティ等に問題を感じている意見がみられた。

(3) 教育活動

教育活動の大項目平均は、3.09 から 3.18 の前年対比 102.91%であった。小項目 14 項目中 11 項目が上昇した。中でも、14)「教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針などの策定」3.26 から 3.57 の 109.5% 15)「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保」3.22 から 3.54 の 109.93%上昇し高得点であった。新カリキュラム運用にあたり緻密に準備し、教育課程編成できたことが影響したと考える。24)「資格要件を備えた教員の確保」は 2.89 から 2.2 の 76.12%と大きく低下し最も低値であった。それと共に 25)「法人内施設との連携、教員を育成及び確保するなどマネジメント」は 2.57 から 2.5、26)「専門分野の研修や教員の指導力向上のための取組」は 2.8 から 2.73 と低く推移した。専任教員数が確保できていないことと支援体制が不十分であることが大きく影響したと考える。教員の人材確保は喫緊の課題であるが、教員間の連携協働の互いに支援ができるような組織編成と教員個々が自己啓発、能力開発できるように教員キャリアラダーへの支援に取り組んでいく。

(4) 学修成果

学修成果の大項目平均は、2.93 から 3.09 の前年対比 105.46%であった。29)「資格取得率の向上」3.3 から 3.7 の 112.12%と上昇した。2021 年度は両学科が国家試験合格 100%を達成した。国家試験合

格率 100%を目指し、入学時から計画的に学習支援し、成績下位者には特別学習支援などの取り組みができています。3 ポイント以下の項目は、31)「卒業生の社会的な活躍および評価を把握」は 2.32 から 2.67 の 115.08%へ上昇している。32)「卒業後のキャリア形成の効果を把握し学校の教育活動の改善に活用」は 2.43 から 2.47 の 101.64%と僅かに上昇している。高度専門看護学科はホームカミングデイを計画し、卒業生からの情報により、卒業後の教育の成果や成長について把握する取り組みができた。しかし卒業後のキャリア形成の効果については、法人及びその他卒業生の就職先との連携を図り、教育活動を評価する視点を明確にして取り組む必要があると考える。

(5) 学生支援

学生支援の大項目平均は、3.13 から 3.12 の前年対比 99.68%であった。低値を示す小項目は、37)「課外活動の支援体制」2.71 から 2.42 であり、コロナ禍が続くため活動が殆どできなかったためである。また、33)「進路・就職の支援体制」は 2.83 から 2.96 と僅かに上昇しているが、法人への就職と助産学科の内部推薦制度が整備されているが、助産学生における就職は、組織体制のとしての支援が課題と考える。その他 3 ポイント以下の項目は 40)「卒業生の支援体制」2.79、41)「社会人のニーズ踏まえた教育環境が整備」2.95、42)「高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取り組み」2.95 であった。アカデミックハラスメント研修に着手したが、学生実態についての理解や課題発見に取り組み、学修、就職、経済面の支援と合わせ、安心できる学校となるように取り組んでいく。

(6) 教育環境

教育環境の大項目平均は、3.24 から 3.33 の前年対比 102.78%であった。43)「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備」は 3.52 と高得点であるが、僅かに低下していた。ICT 教育が進む中、Wifi 環境を整備しハイブリット型教育を継続できている。教員への ICT 教育に関連した研修や教員への ipad 貸出しなどにより、多彩な授業方略など実用化に向けた取り組みはできてきている。

(7) 学生の受入れ募集

学生の受入れ募集の大項目平均は、3.51 から 3.56 の前年対比 101.42%であった。コロナの感染対策で広報活動が縮小されていたが、今年度は、全教員協力体制のもとオープンキャンパスや高等学校でのガイダンス活動に取り組んだ成果と考える。しかし受験者数の増加には至らなかった。教職員に向けた募集力強化の研修の実施やホームページのリニューアルに取り組んでいく。

(8) 財務

財務の大項目平均は、3.18 から 3.24 の前年対比 101.89%であった。「中長期的に学校の財務基盤が安定しているといえるか」は 2.54 と低い。法人によるバックアップがあるが、助産学科定員数の減員、受験者数の減少による学生定員数の確保ができるかなどの問題もあり、経営状況の厳しさを感じている意見がある。在庫管理の徹底と消耗品・教材物品購入の削減などコスト削減はできている。教職員のコスト意識は高まっているが、担当している部分以外や、経営に関わる部分に関しては評価が難しく、「わからない」の回答も多い。今後は自己点検に基づいたどの部署の教職員にも理解しやすい指標の提示等の工夫が必要と思われる。

(9) 法令などの遵守

法令等の遵守の大項目平均は、3.44 から 3.52 の前年対比 102.33%であった。54)「個人情報保護の対策」は 2.96 から 3.62 と大きく上昇した。教職員が情報リテラシーに関する学習を深め、個人情報保護に関する取り扱い方針・規定を定め、適切に運用できている結果と考える。

(10) 社会貢献・地域貢献

社会貢献・地域貢献の大項目平均は、2.84 から 2.83 の前年対比 91.91%であった。57)「学校教育資源や施設を活用」「学生ボランティア活動を推奨」については、コロナ禍にあり社会貢献・地域貢献に繋げることができない状況にあった。地域連携への取り組みは急務であると考え、法人地域活動“まちかど保健室”への参画など検討していきたい。

(11) 国際交流

国際交流の大項目平均は、2.39 から 2.17 の前年対比 88.85%であった。国際交流については、コロナ禍で活動がほぼできていない。2023年度は海外研修実施予定で外にむけての活動の広がりを期待したい。